



○カラス対策には、ステンレスワイヤによる侵入防止が効果的！！

愛知県農業総合試験場普及戦略部 農業革新支援専門員 林 高弘

愛知県では野生鳥獣による農作物被害が年間4～5億円発生しています。うち、カラスによるものが約1.5億円であり、対策が急務です。(図1-1)

丹精込めた農作物が被害にあうことは、金額だけでなく、営農意欲をくじかれることにもつながります。

愛知県農業総合試験場と各農業改良普及課はカラス被害を抑えるべく、対策の実証試験を行っています。近年、ステンレスワイヤを用いた侵入防止対策(図2)が効果的であることがわかりました(図1-2)。

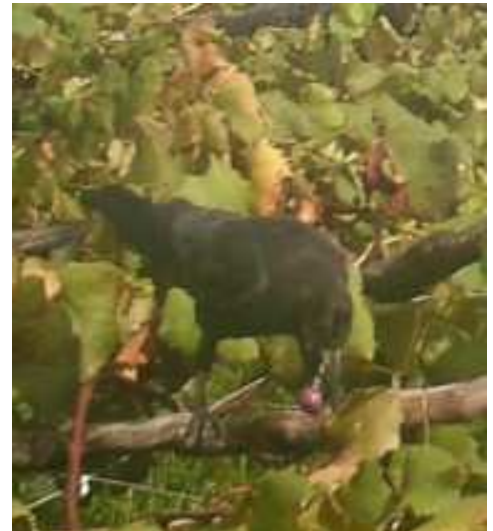


図1-1 ブドウを食べるカラス

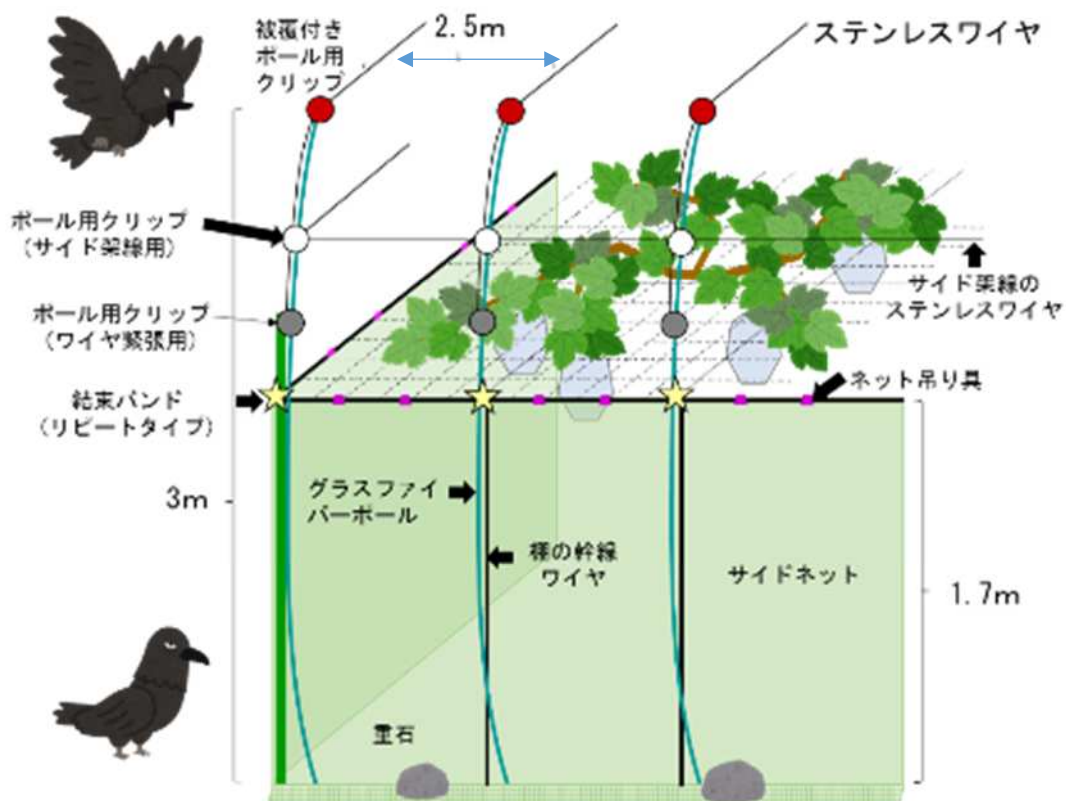
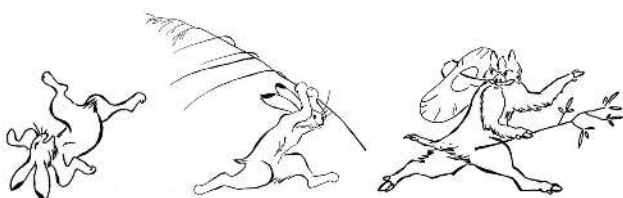


図1-2 ステンレスワイヤの設置状況



愛知県農業水産局農政部
農業振興課野生イノシシ対策室
お問い合わせ Tel.052-954-6726



ステンレスワイヤは、黒色極細（太さ 0.5mm）のステンレス製で丈夫な「テグス」です。カラスから見えにくいという特長があり、翼が何かに触れることを嫌うカラスに「見えない恐怖心」を与えることができます。カラスは学習能力が高いため、嫌な思いをさせることによる忌避効果が期待できます。

2021 年度に県内のブドウほ場で実施した実証試験では、ステンレスワイヤの設置（図 1 - 2）により大幅に被害を減らしました（表 1）。ステンレスワイヤを 2.5m 間隔でブドウ棚の上に設置することで、十分な効果が得られました。

表 1 カラスによる被害房数の比較

	被害房数/10a
ステンレスワイヤ区	10 房
対照区（無設置）	318 房

ステンレスワイヤの設置費用は、周辺のポール等を含めて約 13 万円/10a でした。今後はさらに廉価に設置する方法についても検討を進める予定です。

○イノシシにワクチンを食べさせろ！ その 2 ～ぬか山作戦と現地試験～

2022 年度も豚熱根絶のために、野生イノシシに経口ワクチンを散布しています。今年度は、全 4 回は昨年度と同じですが、母親に食べさせるための 4 月と、大きくなって母親からの免疫が切れた子イノシシに食べさせるための 9 月、11 月、1 月に散布します。

前号のあいち鳥獣通信（2022 年 3 月 16 日発行）には、イノシシに経口ワクチンを食べさせるために四苦八苦している様子を掲載しましたが、今回も手探りの様子を紹介します。

①ぬか山作戦 1

「イノシシは米ぬかを好んで食べるけど、タヌキは好まない。ならば、米ぬかの中にワクチンを隠してしまえばいいだろう！」とのアイデアから、現地試験を行いました（図 2 - 1）。その結果、「トウモロコシを混ぜずにワクチンを埋めてその上に米ぬかを大盛りにする散布方法が適する」という結果が得られました。ちなみに、トウモロコシと一緒に埋めるとキツネ等中型獣の滞在時間が長く、見つけやすくなります。またワクチンを土中に埋めないと、カラスがぬか山を散らしてワクチンを持ち去ってしまいました。



図 2 - 1 ぬか山作戦（左：ひと山 1.5kg、右：1山 100g）

（図 2 - 2）。

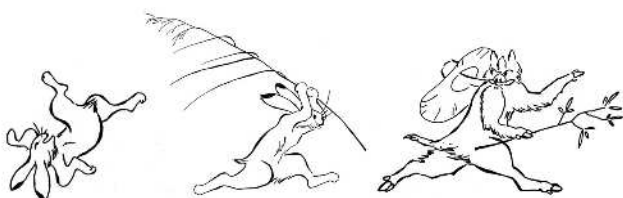




図2-2 イノシシへのワクチン摂取を邪魔する奴ら
(左：ワクチンを掘り当てるキツネ、右：ぬか山を散らしてワクチンを啜るカラス)

②ぬか山作戦2

ぬか山作戦1では米ぬかを1山1.5kgと大量に使用するため、山林に運搬する作業が大変になるなど、実用上の問題がありました。そこで米ぬかの必要量を見極めるための現地試験を、疑似ワクチンベイトを自作して行いました。その結果、「1山300~500gでも効果あり」という結果が得られましたので、今年度の散布に活かすこととしました。



図2-3 自作疑似ワクチン(実際のワクチンと同じ材料(トウモロコシ粉やココナツ油等)で作りました。)

②2022年度前期の散布方法

今年度も散布は事業者委託としますが、回収調査は野生イノシシ対策室職員ができる範囲で実施しています。そこで、一部で下記の図2-4に示す5つの方法での散布を委託し、回収調査で結果を検証するという現地試験を取り入れて散布を行っています。また、愛知県農業総合試験場とも連携していますので、今後は試験場考案の秘密兵器の効果も期待したいです。

イノシシへの経口ワクチン散布は、他県では豚熱関連ということで畜産関係部署が担当しているところが多いですが、愛知県では鳥獣関係部署が担当しています。鳥獣関係部署には野生生物の生態に詳しくて現地試験にも意欲的な職員が多く、現地で試行錯誤しながら散布できるのが利点だと思います。

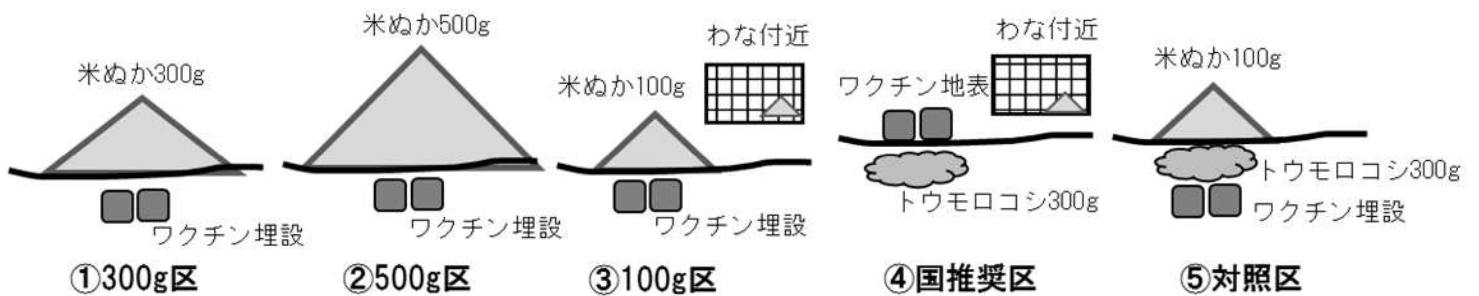
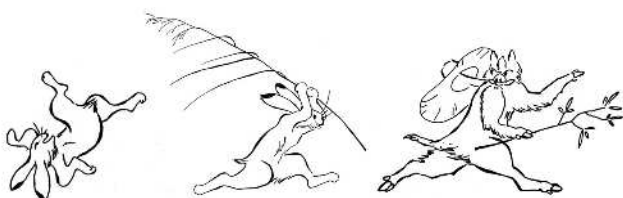


図2-4 2022年度前期の散布試験区

(A S)





いのべえグッズ紹介!

さすがの繁殖力だべえ



ジャケット & ポロシャツ

市販の衣服に、当室で作成したアイロンシールを貼りつければ完成!

アイロンシールは当室で配布しているとか…?
(各自手作り)



アイロンシール↑

今なら当室で貼りつけ作業をサービス中!!



缶バッジ & ピンバッジ

作成にとってもコツがいるらしい…

(KT氏手作り)



キーホルダー

アクリルレジンで作成!!

とってもカラフル!

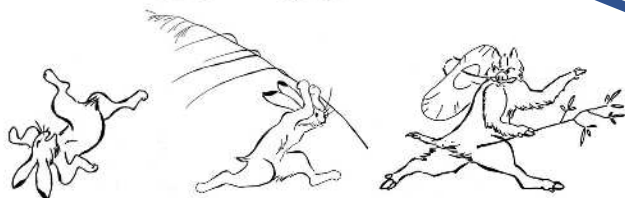
(SM氏の娘さん手作り)



消毒スタンド

わなの部品で作成!
当室ならでは!

(KT氏手作り)



今後 出来上がるグッズもお楽しみに……

(NM)



○シリーズ 農作物の鳥獣被害対策の基本と課題 第1回 鳥獣被害はなぜ発生するのか

☆野生鳥獣による農作物被害の変遷

野生鳥獣による農作物被害は1990年代に顕在化し、2000年代に一層深刻になりました。そこで2007年に、鳥獣被害防止特措法が制定されました。

この経緯だけ見ると、比較的新しい社会問題であるような印象を受けるかもしれませんが、しかし、それは誤認です。時代を遡れば、我が国の農業の歴史が野生鳥獣との戦いの日々だったことは明らかです。その証拠に、全国の至るところでしし垣の遺構が見られ(図3-1)、藩を挙げた10年以上に及ぶイノシシ、シカ根絶の記録が残る地域もあります。第二次世界大戦後から1980年代頃までの数10年間は、野生鳥獣の脅威から一時的に解放された例外的な期間だったのです。



図3-1 江戸時代に築かれたしし垣
(愛知県岡崎市鳥川町)

☆鳥獣被害はなぜ発生する？

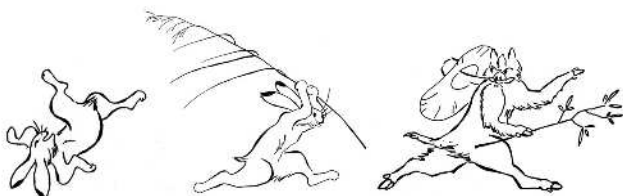
では、鳥獣被害はなぜ発生するのでしょうか。直接の理由は、野生鳥獣に農地や集落を餌場と認識されてしまったことです。被害を防ぐためには、農地周辺で野生鳥獣に餌を与えなければいけません。しかし、誰も餌を与えているつもりはないはずなのに、なぜ野生鳥獣は餌を求めてやって来るのでしょうか。答えは、下に例示するような「意図しない餌付け」にあります。

- ① 誰も収穫しないカキの木や摘み取ったミカンが放置されている(図3-2)。
- ② ひととおり収穫を終えた家庭菜園がしばらくそのままになっている。
- ③ 休耕地を荒れ放題のまま放置し、イノシシの餌場兼ヌタ場となっている。
- ④ 刈り入れが終わった水田の電気柵をすぐに撤去、あるいはワイヤーメッシュ柵の出入口を開けっぱなしにする。

これらすべてが被害を助長すると認識することが、対策の第一歩です。例えば、④がなぜ餌付けになるのか説明できますか？意図しない餌付けはかくも理解しづらく、だからこそ放置されがちなのです。まずは、正しい知識とイメージの共有が大切で、鳥獣被害対策で最初に行うべきことは勉強会だといわれる所以です。



図3-2 摘んでそのまま放置されたミカン
(出荷するつもりはないので食べられても被害の実感はないが、確実に野生鳥獣を誘引する)





☆だけど、以前は大丈夫だったぞ？

以前はそれほど神経質にならなくとも問題なかった。何かもっと根本的な原因と解決策があるのではないか、というご意見もあるでしょう。ごもっともです。では、根本的な原因はどこにあるのでしょうか。

我が国において、鳥獣被害の増加に反比例して減少した数値があります。「農業従事者数」です。農業に携わる人が減り、農村がひっそりと寂しくなったことで、一時的になりを潜めていた野生鳥獣が一気に息を吹き返したのです。つまり、鳥獣被害の増加は農村地域の衰退と表裏一体だといえます。鳥獣被害を根本的に解決するためには、農村を活性化する以外に方策はありません。しかし残念ながら、人間は完全に守勢に回っています。

そこで、視点を変えてみましょう。地域ぐるみで鳥獣被害対策に取り組むことそれ自体、農村活性化の絶好のきっかけ、いわば「ネタ」だと考えることはできないでしょうか。対策がうまくいく集落とそうではない集落との分岐点は、自分たちでやろうとするか、他者(例えば猟友会など)に頼ってやってもらおうとするかであるとの指摘もあります。とにかく、自分たちの問題として正面から向き合う以外に道はないのです。

次号では、鳥獣被害対策の基本「三本柱」について説明します。

☆参考文献・資料

- ・井上雅央. これならできる獣害対策-イノシシ・シカ・サル. 農山漁村文化協会. 2008
- ・農林水産省. 野生鳥獣被害防止マニュアル-総合対策編-. 2018
- ・高橋成紀. シカ問題を考える バランスを崩した自然の行方. ヤマケイ新書. 2015
- ・俵裕一. 農聖 陶山訥庵(庄右衛門)生誕 350 年「猪鹿逐詰之次第」にみる陶山訥庵の猪狩り. 対馬歴史民俗資料館報 30. 2007

(TO)

